



今 性教育を考える

～電話相談員の安達さんに聞く！～



あだち わかこ
講師 **安達 倭雅子**さん(電話相談員)

7月22日(日)13:30～15:30
サテライトキャンパスひろしま

今年の3月の足立区の中学校と東京都議会の性教育に関するニュース等は、みなさんも耳にしておられることだろうと思います。電話の現場でも、しばしば話題になる性の問題。現在の教育現場はどうなっているのか、何かと物議をかもし東京都どうなっているのか？安達さんに聞くニュースより詳しいお話です。子ども達を守るために大人として本当に必要なことは？みなさん一緒に考えていきましょう。



性教育 生徒を守るためにこそ

現実をふまえない現場介入はやめるべきだ。東京都足立区の中学校在3月に、当時の3年生に性教育の授業をした。「産み育てられる状況になるまで性交を避けて」と説く趣旨だった。ところが一人の都議がこれを問題視して議会で質問し、都教育委員会が区教委を指導する事態になった。学習指導要領にない「性交」「避妊」などの語句を使ったのは不適切だ。性交を助長する可能性があり、発達段階にふさわしくない——との理由だ。的外れと言うほかない。高校生になると人工妊娠中絶の件数がはね上がることは、厚生労働省の統計から明らかだ。16～49歳を対象とした日本家族計画協会の意識調査では、「避妊法は15歳までに知るべきだ」と考える人が7割に及ぶ。卒業を控えた3月は、避妊の重要性を教える適切な時期だ。東京都と足立区だけの問題ではない。性教育のあり方を改めて考える機会にすべきだ。たしかに中学の指導要領は性交を扱っていない。ところが、性感染症の防止にコンドームが有効なことは教えよと解説に書く。言葉を使わずに、どうやって理解させるというのか。多くの国では義務教育の期間中に、もっと具体的に、わかりやすく教えている。オブラートに包んでい

ては、未成年の妊娠リスクの重さは伝わらない。全国の公立高で妊娠・出産を理由とする自主退学が15～16年度に674件あったことが、先ごろ報道された。うち32件は学校側の勧告によるという。出産しても通学を続けられる環境を整えるのが教委と学校の務めであり、退学勧告が理不尽なのは言うまでもない。同時に、早すぎる妊娠・出産が学業や進路の選択を狭め、貧困に陥る危険を高めることは、きちんと教えねばならない。自分を大切にするために、性に関する知識は欠かせない。今回と似た事例が15年前にもあった。同じ都議らが旧都立七生(ななお)養護学校の性教育を非難し、都教委は教諭らを「指導要領に反した」と厳重注意した。その当否が争われた裁判で、東京高裁は都議や都教委の行動の一部を違法と判断。性教育一般についても、生徒らの意識や社会状況を踏まえ「従来に比べてより早期に、より具体的に指導することが要請される」との考えに理解を示している。ネットで簡単に雑多な情報が手に入る時代だ。誤った、ゆがんだ知識から子どもたちを守るために、学校で正確な知識を授ける。それが大人の責務だ。

(朝日新聞DIGITAL 2018年4月14日05時00分より)

主催:お問い合わせ、お申し込み
認定特定非営利活動法人 ひろしまチャイルドライン子どもステーション
〒733-0815 広島県広島市中区八丁堀7-11広島YMCA気付き
TEL・FAX 082-233-8655 事務局携帯 090-7998-6113

参加費
1000円



安達 倭雅子 (あだち わかこ) さんプロフィール

1937年,大分県生まれ。明治大学文学部文学科卒業。79年から97年まで「子ども110番」の電話相談をする。“人間と性”教育研究協議会幹事。子どもたちへの性教育に関する取り組みを続けており、子どもの性の問題に関して全国で講演されている。

「電話の中の思春期—語り合う性」・「電話の中の思春期—語り合う性」(ユック舎)、「私と彼とそのあいだ」(ちくまプリマーブックス)、「生きていくから聞きたいこと(性の絵本)」(大月書店・共著)、「子どもと性—性教育をする前に読む本」・「子どもたちの性—親子で語る「性教育」(集英社)、「子どもと親と性と生」(東京シェーレ出版)、「暮らしの中の性教育」(北海道新聞社)、「あっ!そうなんだ!性と生—幼児・小学生そしておとなへ」(エイデル研究所・共著) 他著書多数。

チャイルドラインは

子どもの声に耳を傾け、子どもの気持ちをありのままに受け止め、共感することによって、子どもの心を開放し、自立を支えることを目的とします。

ひろしまチャイルドラインは、2000年3月から子どもの声を聴き続けています。

2017年度は7664件の子どもからの電話を受けました。友だち関係、いじめ、虐待、性の悩み、あるいは話し相手としてチャイルドラインは多様な子どもの声に寄り添い、受け止めてきました。

チャイルドラインの活動は、北ヨーロッパで1970年代半ばより始まり、アジアやアフリカ地域でも開設され、世界145か国で必須の社会システムとして位置づけられています。

会場交通アクセス



交通アクセス
 サテライトキャンパスひろしま(広島県民文化センター 5・6階)
 〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5-3
 ※エディオン本館から南へ約100m

***参加協力チケットのお申し込みは・・・**

ひろしまチャイルドライン子どもステーション事務局(TEL/FAX 082-233-8655)または事務局携帯(090-7998-6113)
 E-mail: hiroshima-childline@fine.ocn.ne.jp へお申し込みください。
 へお申込みください。

住所	〒 -
電話番号	
氏名	大人()名・高校生以下(無料)()名

* 個人情報は本目的以外には使用いたしません。